

3 小学校1年生と幼稚園児の交流

- ねらい** 仲良く、楽しく、安全に遊ぶ
- ・小学校の1年生や先生と触れ合い親しみをもつ。
 - ・多摩川の自然物を使ったいろいろな遊び方を知る。
 - ・多摩川で石や草花、河原の生き物を見付けて遊ぶ。

内 容

	幼児の様子
--	--------------

この交流では事前に、園児のグループごとにかかわってくれる一年生が決まっていたので、園児は不安にならずに、手をつないでもらい出発することができた。園外保育等で、園児だけでも虫探しには出かけていたが、場所が違うこともあり、初めは緊張も見られたが、一年生から「草笛の吹き方教えてあげるよ」「やわらかいはっぱがいいんだよ」など、優しく話しかけてくれたので、すぐに一緒に遊び出す姿が見られた。安全面にも配慮してもらい、ごつごつした大きな石のあるところでは、手をつないでくれたり、「走らないでね」と教えてくれたり、いろいろな場面で優しくしてもらった。

	児童の様子
--	--------------

自然のものを使った遊びの体験は少ない児童が多く、初めのうちは、多摩川の河川敷に行っても何をして遊んでいいかわからないという様子がよく見られた。しかし、自然遊びの体験を積み重ねるうちに、次第に自分から遊びを工夫し、友達と交流し合い、楽しむようになってきた。

隣接する第四幼稚園との交流をどの児童もとても楽しみにし、もっと楽しめる遊びを考えようとしたり、もっと上手にできるようになろうと練習したり準備をはりきって行っていた。

交流の前に、クラスで話し合って、活動のねらいを決めた。ねらいを達成するためにどんなことができるだろうという話し合いでも、「仲良くなるために自分たちから声をかける。」「優しく、わかりやすく、教えてあげる。」「坂道は、走らない。」「手をつないで歩く。」「困っていたら、どうしたのと聞いてあげる。」などの意見を積極的に出し合った。

交流の当日には、担任が何も言わなくとも、それぞれの児童が活動のねらいをしっかりもち、良いと思うことを考えながら、歩道側の方に幼児を歩かせたり、普段おとなしい児童も自分から幼児に遊びを教えたり、安全のための配慮をしたりすることができた。また、捕まえた昆虫をお土産にあげたり、植物でつくったおもちゃや飾りをあげたりするなど、幼児が喜ぶようにと考えて交流をしていた。

交流を終えて

幼稚園

- ・園児は一年生から、色が出る実や草笛の吹き方を教えてもらうことができた。自然の不思議を感じながら、自然物で遊ぶ楽しさを味わえた。また、教えてもらう、手をつないでもらうなど、一年生から優しくしてもらえた。
- ・園児にとっては、一年生が上手に草笛を吹ける、いろいろな遊びを知っている等、憧れの気持ちをもつと同時に、小学生になることへの期待につながると感じた。
- ・秋の多摩川での遊びであったが、春や初夏、冬など、それぞれの時期に活動できると、また違った自然物を使っての遊びを体験できるのではないかと考えた。



幼稚園と小学校の交流活動

<交流を終えての児童の感想>

ぼくは、石でミッキーマウスのおしろを、たか
とくんとつくりました。つくっているときに、か
おがにこにこして、うれしかったよ。
「石でおえかきする？」っていったら、いっぱい
かいたよ。



わたしは、めいちゃんといっしょに、くさと、
はなと、つるでリースをつくりました。めいちゃ
んは、うれしそうにわらっていました。
わたしは、また、めいちゃんにちがうことをお
しえたいです。
石あそびでは、まるいいしをさがしました。カ
ップのなかにいれて、なんこうかぶかじっけんを
しました。2 ころかびました。

ぼくが、しんごくんにくさぶえをおしえたら、しん
ごくんがうまくて、うれしそうでした。
しんごくんに、「おもしろい？」とききました。
しんごくんは、「たのしい。」といって、ぼくは、よ
かったとおもいました。

